

学生はキャリア教育に何を求めるのか —学生アンケートの定量分析から—

松塚 ゆかり（大学教育研究開発センター）

白松 大史（社会学研究科博士後期課程）

1. はじめに

本学では同窓会組織である如水会の強力な支援を受け、産業界で活躍する卒業生によるゼミを開講するなど、独自のキャリア教育を展開してきた。2007年度には「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」が文部科学省の現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムに採択され、共通教育におけるキャリアコアプログラムとして「キャリアゼミ」、「社会実践論」、「男女共同参画時代のキャリアデザイン」などを拡充した。また、同プロジェクトを通して、既存のキャリア関連科目を整理し、学生の体系的学習を促すとともに、キャリア支援室ではキャリアインターンシップや就職セミナーなど、キャリア形成支援活動を発展的に展開してきた¹。

本稿は、上記取組の評価と本学のキャリア教育全般の見直しを目的として実施された学生アンケートの分析結果を報告するものである。アンケート全体に関する報告は2010年3月に出版されるGP報告書に掲載されている。ここでは、キャリア教育科目に対する学生の期待や要求に焦点をあてて分析した結果を報告する。まず、本学学部生がキャリア教育においてどのような授業形態や授業内容を求めているのか、また、キャリア教育の効果としてどのような能力やスキルが養成されることを期待しているのかを明らかにしたい。次に、キャリアコア科目である、「キャリアゼミ」「社会実践論」「男女共同参画時代のキャリアデザイン」の受講状況と照らし合わせながら、学生が期待する授業形態、授業内容、授業効果がそれぞれの科目でどの程度満たされているかを検討したい。最後に、これら学生の期待や要求と、科目提供側が意図する授業目的や授業設計との整合性を考察したい。

2. データ

本報告で使用するデータは、2008年3月から4月にかけて実施した「一橋大学のキャリア教育に関するアンケート」調査の結果である。対象となったのは学士課程在籍者4,400名、大学院課程在籍者1,945名、そして卒業生15,000名であった。本分析では共通教育のキャリアコアプログラムに焦点をあてるため、学士課程のデータを抽出して用いている。3月中旬に対象者の住所宛に質問紙を郵送、4月末まで回収し、502名から回答を得た。

質問紙を資料として添付するが、設問では「卒業後の希望進路」「職業選択の際に重視する事柄」「希

¹ 詳細は、『平成19年度現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（現代GP）「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」報告書』一橋大学大学教育研究開発センター（2010）を参照されたい。

望職業に就くために必要だと思われる能力」「本学で身についた能力」「キャリアプラン実現のために在学中求める支援や教育」「キャリア教育科目受講経験の有無」「実際にキャリア教育科目を受講して身についた能力」「キャリア教育科目に有効だと思われる授業形態と授業内容」「キャリア教育科目で身につくことが重要だと思われる能力」「キャリア形成の観点から大学時代に重要な行動」などを尋ねている。また属性に関わる情報として、課程や学年、学部、入学年度、性別を尋ねている。

回答者の学部および学年の構成は以下の通りとなっている。

表1 アンケート調査回答者属性（学部生）

性別	学年	学部				合計
		商学部	経済学部	法学部	社会学部	
男	1年	18	23	17	19	77
	2年	19	27	16	15	77
	3年	27	17	10	11	65
	4年	37	26	10	14	87
	合計	101	93	53	59	306
女	1年	10	6	11	13	40
	2年	15	7	6	12	40
	3年	10	7	9	11	37
	4年	20	8	19	26	73
	合計	55	28	45	62	190
不明	1年	0	0	1	0	1
	2年	0	1	0	0	1
	3年	0	1	0	0	1
	4年	1	0	1	1	3
	合計	1	2	2	1	6

3. キャリア教育科目に求める形態・内容・効果

学生はキャリア教育にどのような（1）授業形態、（2）授業内容、そして（3）授業効果を期待しているのだろうか。以下では、それぞれの側面について得られた回答を分析し、その傾向性を明らかにしたい。

（1）授業形態

まず、学生がキャリア教育科目に求める授業形態はどのようなものだろうか。アンケートでは、「キャリア形成に関わる科目ではどのような授業形態が重要だと思いますか」との問いに学生は、「少人数で双方向の授業」「グループ学習やプレゼンテーション、ディスカッションを通じた学生参加型の授業形態」「産業界や企業から講師を招く」「OB・OGを講師として招く」「企業や団体でのインターンシップを盛り込む」などの5項目それぞれについて、①全く重要でない、②あまり重要でない、③ある程度重要、④非常に重要、から選択する。これらについて重要性が高まる順に1から4の昇順数値として因子分析を行った。因子分析では、次のモデルを考える。

$$X_n = \alpha_{1i}F_{1i} + \beta_{2i}F_{2i} + \chi_{3i}F_{3i} + \dots + \eta_{ni}F_{ni} + e_n \quad \text{----- i)}$$

Xは観測要因変数、 α_{1i} , β_{2i} , χ_{3i} , \dots , η_{ni} は各因子の因子負荷量、Fは各因子の因子得点、eは独自因子である。このモデルをもとに、表2で示すように2つの因子が抽出された。

第1因子は、「学生参加型の授業形態」「少人数で双方向の授業形態」などゼミナールの特徴を有する授業形態を重視する傾向、第2因子では、「OB・OGを講師として招く」「産業界や企業から講師を招く」「企業等でのインターンシップを盛り込む」など、本学卒業生をはじめとする社会人による講話や職業体験などを重視する傾向を読み取ることができる。すなわち、キャリア教育科目の形態として、「ゼミ形式」を好む学生と、「社会人による講演」を好む学生がいることがわかる。

表2 授業形態に関する因子負荷量（主因子法、バリマックス回転）

	因子	
	1	2
グループ学習やプレゼンテーション、 ディスカッションを通じた学生参加型の授業形態	0.913	0.056
少人数で双方向の授業形態	0.656	0.057
OB・OGを講師として招く	-0.042	0.748
産業界や企業から講師を招く	0.014	0.725
企業や団体でのインターンシップを盛り込む	0.164	0.421
回転後の負荷量平方和（2因子合算）	2.562	

(2) 授業内容

次に、学生は、キャリア教育科目にどのような「授業内容」を期待しているのか検討していく。アンケートでは、「キャリア形成に関わる科目ではどのような授業内容が重要であると思いますか」と尋ねており、これに対し「将来の生き方・人生設計」「学ぶこと・働くことの意義・目的」「自己の個性・適性の判断」「進路選択の考え方・方法」「将来の仕事に役立つ知識・技術」「産業・職場についての情報・知識」「職業見学・現場実習などの就業体験」「OB・OGの体験紹介」「キャリア形成理論など基礎学習」それぞれについて、「授業形態」の場合と同様、①全く重要でない、②あまり重要でない、③ある程度重要、④非常に重要、から選択している。それぞれの結果を1から4の昇順数値としてi)のモデルをもとに因子分析を行った結果が表3である。

第1因子の列に示されるように、「将来の生き方・人生設計」「学ぶこと・働くことの意義や目的」「自己の個性・適性の判断」「進路選択の考え方・方法」などがキャリア教育科目の内容として重要であると考えられる学生に共通性が見られる。そして、「将来の仕事に役立つ知識・技術」「産業・職場についての情報・知識」「職場見学・現場実習などの就業体験」「キャリア形成理論などの基礎学習」など、どちらかといえば具体的な職業に沿った内容の授業を求める学生が第2因子として抽出されている。「理論や考え方の教授」を重視する者と「具体的な職業内容の提示」を求める者の2種のタイプが浮

かび上がってくる。

表3 授業内容に関する因子負荷量（主因子法、バリマックス回転）

	因子	
	1	2
将来の生き方・人生設計	0.711	0.119
学ぶこと・働くことの意義・目的	0.667	0.005
自己の個性・適性の判断	0.558	0.181
進路選択の考え方・方法	0.535	0.302
将来の仕事に役立つ知識・技術	0.115	0.669
産業・職場についての情報・知識	0.044	0.661
職場見学・現場実習などの就業体験	0.098	0.559
キャリア形成理論など基礎学習	0.218	0.463
OB・OGの体験紹介	0.294	0.359
回転後の負荷量平方和（2因子合算）	3.384	

(3) 授業効果

最後に、学生はキャリア教育を通してどのような能力が身につくことを期待しているのか調べてみる。アンケートでは、「キャリア形成に関わる科目ではどのような能力が身につくことが重要であると思いますか」と尋ねており、これに対し学生は、「業界に関する具体的知識」「企業で働く上での具体的知識・能力」「業界人とコミュニケーションをとる能力」「社会で働く意義の理解」「自分に適した業界を選ぶ能力」「自分の専門と職業実践を結びつける能力」「人脈の構築」「友人関係の構築」「分析的・論理的な能力」「社会に対する見方・考え方」「論理的文章作成能力」「プレゼンテーション能力、分かりやすく話す力」「対人関係能力、コミュニケーション能力」「自己理解力、アイデンティティ」「課題発見・解決能力」「決められたことを実践する力」「構想力、企画力」「チームワーク、リーダーシップ」の18項目それぞれについて、「全く重要でない」から「非常に重要」まで4段階の選択肢から選ぶ。これに昇順で数値を配し、i) のモデルをもとに因子分析を行った結果が表5である。

4つの因子が抽出されたが、1番目の因子を構成するのは「プレゼンテーション能力、わかりやすく話す力」「課題発見・解決能力」「構想力、企画力」「対人関係能力、コミュニケーション能力」「チームワーク、リーダーシップ」などで、仕事を実践していく上で一般的に求められるスキルを重視しているといえる。「ジェネリック・スキル」と表現される能力でもあり、また、文部科学省が定義する「学士力」や通商産業省の提唱する「社会人基礎力」とも共通性を持つ。因子2は「企業で働く上での具体的知識・能力」「業界に関する具体的知識」「自分の専門と職業実践を結びつける能力」など、職業や専門に関わる、企業や産業を特定した専門的知識を重視しているといえる。因子3は、「人脈の構築」「友人関係の構築」など、他者との関係を築き上げる力を重視している。因子4は、「社会で働く意義の理解」「社会に対する見方・考え方」「自己理解、アイデンティティ」など、就業する社会的意義を学生自らの適性と関連させて考えることに重きを置いた効果であると考えられる。以上から、キャリア

ア教育から得られる効果として、「一般的技能」「分野特定型技能」「対人関係スキル」「就業の社会的意義」などのスキルを向上させることを期待する学生がいることがわかる。

表4 授業効果に関する因子負荷量（主因子法、バリマックス回転）

	因子			
	1	2	3	4
プレゼンテーション能力、分かりやすく話す能力	0.786	0.069	0.223	0.047
課題発見・解決能力	0.725	0.229	0.083	0.196
構想力、企画力	0.698	0.248	0.091	0.142
対人関係能力、コミュニケーション能力	0.692	-0.005	0.285	0.152
チームワーク、リーダーシップ	0.669	0.074	0.271	0.154
論理的文章作成能力	0.656	0.192	0.125	0.135
分析的・論理的能力	0.602	0.181	0.185	0.179
決められたことを実践する能力	0.535	0.285	0.086	0.177
企業で働く上での具体的知識・能力	0.122	0.748	0.050	0.017
業界に関する具体的知識	0.139	0.659	0.082	-0.005
自分の専門と職業実践を結び付ける能力	0.144	0.542	0.149	0.158
業界人とコミュニケーションをとる能力	0.324	0.347	0.342	0.078
人脈の構築	0.278	0.219	0.778	0.076
友人関係の構築	0.290	0.121	0.741	0.143
社会で働く意義の理解	0.079	0.022	0.024	0.741
社会に対する見方・考え方	0.231	0.066	0.061	0.537
自己理解力、アイデンティティ	0.378	0.050	0.189	0.397
自分に適した業界を選ぶ能力	0.130	0.347	0.143	0.379
回転後の負荷量平方和（4因子合算）	9.078			

4. キャリア教育科目の受講と、形態・内容・効果との関係

これまでは、学生がキャリア教育科目にどのような授業形態、授業内容、授業効果を求めているかについてまとめてきた。以下では、学生が期待する授業形態、授業内容、授業効果の傾向が、キャリアコア科目である、「キャリアゼミ」「社会実践論」「男女共同参画時代のキャリアデザイン」の受講にどのような影響を与えているか、視点を逆にすると、それぞれのキャリアコア科目を受講した学生はキャリア教育にどのような期待をいただいているかを考察したい。

これに先立ち、各キャリアコアの目的や内容を2007年度のシラバスを参考に概観する。まず、キャリアゼミは2年生を対象としたゼミ形式の科目で、「ビジネスの第一線で活躍する本学卒業生とのゼミ形式の対話を通して、仕事・業界への実践的理解を深め、学生のキャリア形成に寄与することを目的」としている。次に、社会実践論は1年生を対象とした科目で、講師が各講義で変わるオムニバス形式の講義科目となっている。この講義科目の目的として、「社会の第一線で活躍してきた一橋の先輩が、職業経験に裏打ちされた人生哲学や職業意識を伝授し、産業の現状を講義することで、学生の職業観を醸成する。同時にこれから専攻する専門分野等への勉学意欲を鼓舞することを目的とする」

と記されている。男女共同参画時代のキャリアデザインは、社会実践論同様に、講師が各講義で変わるオムニバス形式の講義科目となっている。科目の目的は、「男女共同参画に対する高い意識と理解を育むことと企業における男女雇用、活用の実態と問題点の把握を目的とし、これからの個人・家族・企業のあり方とはどのようなものになるのかという〈中期的な社会ヴィジョン〉を描き、その実現に向けた方策を考え、各人が豊かなキャリアデザインを行う力を獲得することを目指す」とある。

これらキャリア科目の受講において、学生がキャリア教育に求める授業形態、授業内容、授業効果はどのように影響してくるのであるか。まず、表5に、アンケート回答者のキャリア教育科目の受講状況の概要を示す。アンケート回答者の、「キャリアゼミ」「社会実践論」「男女共同参画時代のキャリアデザイン」のそれぞれを受講した経験と受講意志の有無を示すものである。

表5 キャリア教育科目の受講状況

	受講するつもりはない	これから受講してみたい	受講したことがある
キャリアゼミ	300	155	38
社会実践論	243	145	108
男女共同参画時代のキャリアデザイン	297	132	64

ここで焦点をあてたいのは、各科目を「受講したことがある」と回答した者と「これから受講してみたい」と回答した者である。それぞれのキャリアコア科目の受講を欲する学生はキャリア教育にどのような期待をいただいているかを明らかにするためである。分析方法としては、各コア科目を受講したことがある学生並びに今後受講したいと望んでいる学生を「受講意志」がある学生として「1」とし、受講するつもりがない学生を「0」としてこれを被説明変数とする。説明変数は、前節のモデル i) をもとにして求められる、授業形態、授業内容、授業効果それぞれの因子得点である。モデルは

$$P_i = F(Z_i) = \alpha + [\beta CFi / \chi CCI, / \delta CEi] \text{ ----- ii)}$$

とし、受講意志を有する確率“ P_i ”を授業形態： CF 、授業内容： CC 、授業効果： CE のそれぞれで説明するプロビット分析を行う。

(1) キャリアゼミ

授業形態、授業内容、授業効果についてどのような期待を持つ学生が、キャリアゼミの受講を希望するだろうか。回帰の結果を表6に示す。まず授業形態に注目すると、「ゼミ形式」「社会人による講演」ともにキャリアゼミ受講意志に対して強い効果を有しており、それぞれの授業形態を強く望む学生ほどキャリアゼミの受講を希望することがわかる。授業内容については、統計的優位性は高くはないものの、キャリア教育科目で人生設計に関する理論や考え方を学びたいとする者は、キャリアゼミの受講を欲しない傾向にあることが興味深い。また、具体的な職業内容などの提示を求める者はキャリ

アゼミの受講を希望する傾向にある。キャリア教育に高い実践性を求める者がキャリアゼミを受講するということであろう。最後に、授業効果については、「分野特定型専門能力の獲得」が最も強いプラスの効果をもっていることがわかる。

表6 キャリアゼミと授業形態、内容、効果

パラメータ	推定値	標準誤差	Z	有意確率	χ^2
授業形態：ゼミ形式	.254	.066	3.840	.000	484.251
授業形態：社会人による講演 定数項	.242 -.294	.070 .059	3.432 -4.947	.001 .000	
授業内容：人生設計に関する理論や考え方	-.004	.070	-.059	.953	482.208
授業内容：具体的な職業内容の提示 定数項	.349 -.285	.073 .059	4.789 -4.844	.000 .000	
授業効果：一般的能力の獲得	.129	.065	1.997	.046	481.902
授業効果：分野特定型専門能力の獲得	.255	.070	3.619	.000	
授業効果：対人関係スキルの獲得	.027	.068	.406	.685	
授業効果：就業の社会的意義の理解 定数項	-.082 -.278	.072 .059	-1.143 -4.743	.253 .000	

すなわち、特定の職業や産業に関する知識や情報など職務実践的能力を獲得したいと考えている者ほど、キャリアゼミの受講を希望する傾向にあることがわかる。一方、就業の社会的意義を理解するなど、職務実践とは直接に関係の無い能力の養成を求める者は、キャリアゼミの受講を希望しない傾向にある。これらの結果は、学年、学部、性別などの属性変数を入れても大きな変化は見られなかった。これらから、キャリアゼミはより実践的なキャリア形成を期待されているということが言えよう。

(2) 社会実践論

次に社会実践論について、授業形態、授業内容、授業効果についてどのような期待を持っている学生が受講するのかを調べたい。表7が分析の結果である。キャリアゼミほど強い傾向は出ていないものの、ゼミナール形式や社会人による講演などの授業形態が重要であると考えた者ほど社会実践論の受講を欲する傾向にある。授業内容については、統計的に有意なのは「人生設計に関する理論や考え方」であり、そのような学習を求める者が社会実践論の受講を欲する傾向にある。「具体的な職業内容の提示」は、正の効果を示しているものの、キャリアゼミに比較すると社会実践論ではそれほど求められているわけではない。授業効果については、統計的に有意なのはまず、「対人関係スキルの獲得」の負の効果である。すなわち、対人関係スキルの獲得をキャリア教育に求める者は、社会実践論の受講に消極的であるということである。他方で「就業の社会的意義を理解する」は有意な正の効果をもっている。就業に関する社会的意義を理解したいと考える者が社会実践論を受講する傾向にあるということがいえる。

表7 社会実践論と授業形態、内容、効果

パラメータ	推定値	標準誤差	Z	有意確率	χ^2
授業形態：ゼミ形式	.110	.062	1.784	.074	487.134
授業形態：社会人による講演	.167	.068	2.468	.014	
定数項	.024	.057	.427	.669	
授業内容：人生設計に関する理論や考え方	.176	.069	2.561	.010	484.936
授業内容：具体的な職業内容の提示	.124	.069	1.790	.073	
定数項	.028	.057	.493	.622	
授業効果：一般的能力の獲得	.102	.063	1.614	.106	483.871
授業効果：分野特定型専門能力の獲得	.125	.068	1.836	.066	
授業効果：対人関係スキルの獲得	-.173	.067	-2.565	.010	
授業効果：就業の社会的意義の理解	.182	.072	2.536	.011	
定数項	.012	.058	.212	.832	

(3) 男女共同参画時代のキャリアデザイン

表8は「男女共同参画時代のキャリアデザイン（以下キャリアデザインとする）」の受講意志と授業形態、内容、効果内容に関する期待との関係を示すものである。まず、キャリアデザインにおいては、キャリアゼミおよび社会実践論とは異なり、ゼミナール形式での授業を希望する者ほど受講を希望しない傾向にあることがわかる。統計的有意性は高くないものの、マイナスの効果は特筆すべきである。一方、社会人による講演は、キャリアデザイン受講希望者にも求められている。授業内容について見てみよう。キャリアゼミ、社会実践論と異なる点は、「人生設計に関する理論や考え方の教授」を求める学生ほど受講を希望する傾向にあることである。授業効果については唯一有意なのが、「就業の社会的意義の理解」の効果である。この傾向は社会実践論と同様である。すなわち、キャリアデザインの受講を希望する学生は就業に役立つ直接的スキルではなく、就業する社会的意義や学生自らの社会適応性などを学ぶことを重視する傾向にある。

表8 男女共同参画時代のキャリアデザインと授業形態、内容、効果

パラメータ	推定値	標準誤差	Z	有意確率	χ^2
授業形態：ゼミ形式	-.032	.062	-.516	.606	484.359
授業形態：社会人による講演	.175	.069	2.533	.011	
定数項	-.265	.058	-4.567	.000	
授業内容：人生設計に関する理論や考え方	.174	.069	2.503	.012	481.834
授業内容：具体的な職業内容の提示	.084	.070	1.201	.230	
定数項	-.263	.058	-4.519	.000	
授業効果：一般的能力の獲得	.093	.064	1.446	.148	482.273
授業効果：分野特定型専門能力の獲得	.015	.069	.214	.830	
授業効果：対人関係スキルの獲得	-.092	.067	-1.362	.173	
授業効果：就業の社会的意義の理解	.243	.073	3.317	.001	
定数項	-.262	.058	-4.476	.000	

5. まとめとして —シラバスと関連させながら—

本報告では、2段階の分析を通じて、本学でのキャリア教育科目に学生たちが何を求めているのかについて検討してきた。ここではまとめとして、シラバスに記された講義意図と関連させながら、大学側と学生とのあいだのキャリア教育科目に寄せる期待の相違点について考えてみたい。

まずキャリアゼミについては、ゼミナール形式の授業形態が重要であるとする学生ほど、具体的な職業内容を学習したいと欲する学生ほど、そして分野特定の専門能力を獲得したいと望む学生ほど受講する傾向にあることが明らかになった。これに対してシラバスに目を向けてみると、冒頭で挙げたように、キャリアゼミは、社会実践論やキャリアデザインのようなオムニバス講義形式の科目とは異なり、講師と学生とがより身近で双方向に対話することを通じて職業・業種の「実践的理解」と「学生のキャリア形成に寄与すること」とが講義意図として示されている。こうした意図と分析結果を対応させてみると、シラバスに記された講義意図が受講学生にも受容されていることが示唆される。

次に社会実践論については、授業内容として人生設計に関する理論や考え方を教えることが重要だと考える学生ほど、そして授業効果として仕事に就くことの社会的意義を理解することが重要だと考える学生ほど、受講する傾向にあることが明らかになった。シラバスに目を向けてみると、社会実践論は、講師が各講義で異なるオムニバスによる講義形式となっており、講師それぞれが職業経験をもとに得た「人生哲学」「職業意識」の伝達や「産業の現状」を示すことに力点が置かれている。換言すれば、講師（業種）に具体的な形で「学生の職業観の醸成」を狙っているのが社会実践論という講義科目だといえる。こうした意図と分析結果を対応させてみると、講義中に様々な講師によって様々な示される「人生哲学」「職業意識」を受け取りながら就業の社会的意義を考えるという講義意図は、受講学生にも受け入れられているものと思われる。他方で、各講師の職業経験に通じている、人生設計に求められる考え方などを教わることも社会実践論という科目では重要であると受講学生は考えているのではないかとも思われるのである。

最後にキャリアデザインについては、授業内容として人生設計に関する理論や考え方を教えることが重要だと考える学生ほど、そして授業効果として仕事に就くことの社会的意義を理解することが重要だと考える学生ほど、受講する傾向にあることが明らかになった。キャリアデザインは講師が各講義で異なるオムニバスによる講義形式である。そしてシラバスに目を向けてみると、仕事に就くことの意味だけではなく、男女共同参画のもと「個人・家族・企業のあり方とはどのようなものになるのかという〈中期的な社会ヴィジョン〉」を描ける力を獲得することがこの科目の意図であると読み取ることができよう。換言すれば、就業することを含めた、人生設計全般への目配りができるようになり、かつ人生設計そのものができるようになることがこの科目の狙いだということになるだろう。この意図と分析結果を対応させてみると、就業を含めた人生をどう組み立てていくのかその組み立て方を、職業に特化しない形で学ぶという講義意図を受講学生が概ね受容しているように思われる。

本報告は学生のニーズが受講意志の有無にどのように反映され、その傾向は授業提供側の意図とどの程度整合するかを明らかにしようとしたものであった。キャリアコアカリキュラムの開講意図は概ね学生から理解されており、学生も自己のニーズや希望に合わせて各科目を受講していることがうか

がわれた。しかしながら本考察は仮説型分析に依拠したものではなく、掌中にあるデータを以て可能な範囲で探索的分析を行った結果である。従って分析手法、結果ともに信頼性に欠く要素が少なくない。例えば、受講の有無や受講の意志は学生のニーズや希望のみを反映するわけではなく、科目履修の外的制約なども絡んでいるだろうが、これをコントロールすることができていない。本調査と分析を経て、今後より信頼性の高い分析を可能とするアンケート内容および収集方法を検討することもあらたな課題として浮かび上がったといえる。

<資料>

在學生用

一橋大学のキャリア教育に関するアンケート (学生)

調査へのご協力をお願い

本学では平成19年度より、「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」を展開し、学部教育におけるキャリア教育の充実・発展に努めています。このプロジェクトは、文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定され、平成21年度まで継続実施される予定です。

この度、キャリア教育を含む本学のコアカリキュラムをより充実したものとするため、学生の皆様に対するアンケート調査を実施することとなりました。いただいたご意見は本学の教育改革の参考とさせていただくとともに、アンケート結果を公表し、みなさんが卒業後のキャリアを考える材料としていただきたいと思います。

回答内容はすべて統計的に処理し、ご回答いただいた皆様にご迷惑をお掛けすることはありません。本調査に関してご不明の点などがございましたら、下記の間合せ先までご連絡下さい。また、本プロジェクトに関する詳しい情報は下記のウェブサイトをご覧ください。

<本調査および現代GPに関するお問合せ先>

一橋大学 大学教育研究開発センター

E-Mail : GPsvy@rdche.hit-u.ac.jp

電話 : 042-580-8996

<大学教育研究開発センターウェブサイト>

<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/>

<一橋大学・現代GPウェブサイト>

<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~gp/index.html>

<調査実施機関>

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

アンケート票は、同封の返信用封筒にて 2008年3月31日までに御返送下さい。
(その後も返信を受け付けております)

I. はじめに、あなた自身についてお伺いします。

●現在の所属課程、学部・研究科

課程： 学士課程 修士課程 博士課程

学部： 商学部 経済学部 法学部 社会学部

研究科： 商学研究科 経済学研究科 法学研究科 社会学研究科
 言語社会研究科 国際企業戦略研究科 国際・公共政策教育部

●学年： 1年 2年 3年 4年 その他

●本学への入学年度 他大学に在籍されていた方は空欄で結構です。

学部：

2007年度 2006年度 2005年度 2004年度 2003年度 2002年度
 2001年度 2000年度 それ以前

修士：

2007年度 2006年度 2005年度 2004年度 2003年度 2002年度
 2001年度 2000年度 それ以前

博士：

2007年度 2006年度 2005年度 2004年度 2003年度 2002年度
 2001年度 2000年度 それ以前

●性別

男 女

II. あなたのキャリアプランについてお伺いします。

Q1 卒業後どのような産業に進みたい、あるいは進む予定ですか。1つ選択してください。

1. 製造業・建設業
2. 商社・卸売
3. 百貨店・小売店・飲食店
4. 金融・保険業
5. 運輸・通信・電気・ガス
6. マスコミ・広告・調査
7. ソフトウェア・情報処理
8. 教育
9. その他のサービス業
10. 公務員
11. 主婦

12. その他 ()
 13. 考えていない

Q2 卒業後どのような職種に就きたい、あるいは就く予定ですか。1つ選択してください。

1. 専門技術職
 2. 管理職
 3. 事務職
 4. 営業販売職
 5. サービス職
 6. その他 ()
 7. 考えていない

Q3 職業を選択する際にどのようなことを重視しますか。各項目に関し左から重要だと思われる順に1つを選択し○で囲んでください。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	まったく重要でない
1	専門能力を生かせる	4	3	2	1
2	社会に貢献できる	4	3	2	1
3	仕事にやりがいがある	4	3	2	1
4	企業が成長している	4	3	2	1
5	産業が成長している	4	3	2	1
6	経済的安定性が高い	4	3	2	1
7	社会的知名度が高い	4	3	2	1
8	高い収入が望める	4	3	2	1
9	福利厚生が充実している	4	3	2	1
10	本学卒業生が多い	4	3	2	1
11	労働環境が良い	4	3	2	1
12	その他				

Q4 希望の職業に就くためにはどのような能力が必要であると思いますか。

		非常に必要	ある程度必要	あまり必要でない	まったく必要でない
1	専門分野に関する知識、思考法	4	3	2	1
2	幅広い学問的知識や能力	4	3	2	1
3	分析的な能力、論理的思考能力	4	3	2	1
4	社会に対する見方・考え方	4	3	2	1
5	職業に直接役立つ知識・技能	4	3	2	1
6	論理的な文章作成能力	4	3	2	1
7	プレゼンテーション能力、分かりやすく話す力	4	3	2	1
8	対人関係能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1

9	自己理解力、アイデンティティ	4	3	2	1
10	課題発見・解決能力	4	3	2	1
11	決められたことを実践する力	4	3	2	1
12	構想力、企画力	4	3	2	1
13	チームワーク、リーダーシップ	4	3	2	1
14	その他				

Q5 これまでの本学での教育を通して以下の能力がどの程度身についたと思いますか。

		非常に身に 付いた	ある程度身に 付いた	あまり身に 付かなかった	まったく身に 付かなかった
1	専門分野に関する知識、思考法	4	3	2	1
2	幅広い学問的知識や能力	4	3	2	1
3	分析的な能力、論理的思考能力	4	3	2	1
4	社会に対する見方・考え方	4	3	2	1
5	職業に直接役立つ知識・技能	4	3	2	1
6	論理的文章作成能力	4	3	2	1
7	プレゼンテーション能力・分かりやすく話す力	4	3	2	1
8	対人関係能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1
9	自己理解力、アイデンティティ	4	3	2	1
10	課題発見・解決能力	4	3	2	1
11	決められたことを実践する力	4	3	2	1
12	構想力、企画力	4	3	2	1
13	チームワーク、リーダーシップ	4	3	2	1
14	その他				

Q6 あなたのキャリアプランを実現する上で大学在籍中どのような支援や教育が重要であると思いますか。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要 でない	まったく重要 でない
1	キャリアセミナーや会社説明会などでの情報収集	4	3	2	1
2	キャリア専門家によるアドバイスや相談の受付	4	3	2	1
3	キャリア形成にかかわる授業科目の充実	4	3	2	1
4	企業や他団体でのインターンシップ	4	3	2	1
5	OB・OGによるサポート	4	3	2	1
6	教員によるサポート	4	3	2	1
7	親によるサポート	4	3	2	1

8	親以外の肉親によるサポート	4	3	2	1
9	部活動やサークルを通じたネットワーク	4	3	2	1
10	友人のサポート	4	3	2	1
11	その他				

Ⅲ. 本学のキャリア教育について伺います。

Q7. 本学では現在、同窓会組織である如水会と協力して、「キャリアゼミ」、「社会実践論」、「男女共同参画時代のキャリアデザイン」、「インターンシップ」などの授業を開講しています。これらそれぞれの授業を受講したことがあるか、また受講する予定があるかお答えください。

		受講したことがある	これから受講したい	受講するつもりがない
1	キャリアゼミ	1	2	3
2	社会実践論	1	2	3
3	男女共同参画時代のキャリアデザイン	1	2	3
4	インターンシップ	1	2	3

Q7で「受講したことがある」と回答された方に伺います。「これから受講したい」、「受講するつもりがない」と回答された方はQ9にお進みください。

Q8. 受講した授業ではどのようなことを学びましたか。それぞれの授業で該当する項目に○をつけてください。

		キャリアゼミ	社会実践論	男女共同参画時代のキャリアデザイン	インターンシップ
1	業界に関する具体的知識				
2	企業で働く上での具体的知識・能力				
3	業界人とコミュニケーションをとる能力				
4	社会で働く意義の理解				
5	自分に適した業界を選ぶ能力				

6	自分の専門と職業実践を結びつける能力				
7	人脈の構築				
8	友人関係の構築				
9	分析的・論理的な能力				
10	社会に対する見方・考え方				
11	論理的な文章作成能力				
12	プレゼンテーション能力、分かりやすく話す力				
13	対人関係能力、コミュニケーション能力				
14	自己理解力、アイデンティティ				
15	課題発見・解決能力				
16	決められたことを実践する力				
17	構想力、企画力				
18	チームワーク、リーダーシップ				
19	その他				

Q9. キャリア形成に関わる科目ではどのような**授業形態**が重要であると思いますか。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	まったく重要でない
1	少人数で双方向の授業形態	4	3	2	1
2	グループ学習やプレゼンテーション、ディスカッションを通じた学生参加型の授業形態	4	3	2	1
3	産業界や企業から講師を招く	4	3	2	1
4	OB・OGを講師として招く	4	3	2	1
5	企業や団体でのインターンシップを盛り込む	4	3	2	1
6	その他				

Q10. キャリア形成に関わる科目ではどのような**授業内容**が重要であると思いますか。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	まったく重要でない
1	将来の生き方・人生設計	4	3	2	1
2	学ぶこと・働くことの意義・目的	4	3	2	1
3	自己の個性・適性の判断	4	3	2	1
4	進路選択の考え方・方法	4	3	2	1
5	将来の仕事に役立つ知識・技術	4	3	2	1
6	産業・職場についての情報・知識	4	3	2	1
7	職業見学・現場実習などの就業体験	4	3	2	1
8	OB・OGの体験紹介	4	3	2	1
9	キャリア形成理論など基礎学習	4	3	2	1
10	その他				

Q11 キャリア形成に関わる科目ではどのような**能力**が身につくことが重要であると思いますか。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	まったく重要でない
1	業界に関する具体的知識	4	3	2	1
2	企業で働く上での具体的知識・能力	4	3	2	1
3	業界人とコミュニケーションをとる能力	4	3	2	1
4	社会で働く意義の理解	4	3	2	1
5	自分に適した業界を選ぶ能力	4	3	2	1
6	自分の専門と職業実践を結びつける能力	4	3	2	1
7	人脈の構築	4	3	2	1
8	友人関係の構築	4	3	2	1
9	分析的・論理的な能力	4	3	2	1
10	社会に対する見方・考え方	4	3	2	1
11	論理的な文章作成能力	4	3	2	1
12	プレゼンテーション能力、分かりやすく話す力	4	3	2	1
13	対人関係能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1
14	自己理解力、アイデンティティ	4	3	2	1

15	課題発見・解決能力	4	3	2	1
16	決められたことを実践する力	4	3	2	1
17	構想力、企画力	4	3	2	1
18	チームワーク、リーダーシップ	4	3	2	1
19	その他				

Q12 キャリア形成という視点から、大学時代どのような行動をとることが重要であると考えますか。

		非常に重要	ある程度重要	あまり重要でない	まったく重要でない
1	専門分野の学習を深める	4	3	2	1
2	幅広くいろいろな分野の学習を行う	4	3	2	1
3	授業に真面目に出席する	4	3	2	1
4	ゼミナールの学習に打ち込む	4	3	2	1
5	卒業論文の作成に打ち込む	4	3	2	1
6	多くの友人をつくる	4	3	2	1
7	教員と多くコミュニケーションを取る	4	3	2	1
8	クラブ・サークル活動に打ち込む	4	3	2	1
9	アルバイトを経験する	4	3	2	1
10	ボランティアなど社会経験を積む	4	3	2	1
11	自分の好きなことに打ち込む	4	3	2	1
12	多くの本を読む	4	3	2	1
13	就職したい業界の研究を行う	4	3	2	1
14	その他				

IV. 自由記述

以下の各項目について、ご意見やお考えをお聞かせ下さい。ご回答いただいた内容は、できる限り関係者にそのまま伝えたいと思いますので、具体的なご意見をご記入下さい。

Q13. 本学のキャリア教育に対する希望や注文

--

Q14. OB・OGや同窓会員への要望やメッセージ

Q15. 最後に、一橋大学の教育全体に関し期待することがありましたら、ご自由にご記入下さい。

今後、本事業に関するご案内並びに調査結果などを送付させていただきますので、差し支えなければ、以下の欄に E-Mail アドレスをご記入下さい。

E-Mail アドレス (携帯電話のアドレスを除く)

以上でアンケートは終わりです。ご協力、誠にありがとうございました。